



2009年4月

会長就任の御挨拶

会長 新井 保幸

毛利陽太郎前会長の後任として、このたび図らずも会長の大役を仰せつかりました新井保幸と申します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。私が本学会に入会したのは1985年のことで、かれこれ四半世紀になります。この間、私にとっては恩師でもある真野宮雄会長の時代（1990年～1996年）に事務局幹事（前半3年）及び事務局長（後半3年）を務めたことがございます。

関東教育学会は五十有余年の輝かしい歴史を持っておりませんが、現状は決して芳しいものではありません。会員数は250名前後で停滞し、大会参加者数は会員数の2割にも達していないのが現状です。しかも若手会員と年配会員に比べて、本来中核たるべき壮年層が薄いという、元気のない学会に共通に見受けられる特徴が本学会にも当てはまります。学会の活性化という合言葉は久しい以前から唱えられてきましたが、実を上げているとはどうもいえません。地方教育学会はどこも、こうした悩みをかかえています。関東教育学会もその歴史的役割を果たし終え、いまや消滅の時を迎えつつあるのでしょうか。

そうならないように微力を尽くすのが会長の職責と存じます。本学会にはいくつかのメリットがあります。第1に総合性です。今日は専門学会大はやりで、総合学会は専門学会より一段レベルが低いと見られがちです。それを一概に否定はしませんが、一つの問題をいろんな角度から論じ合えるのが総合学会の強みです。例えば私が属している教育哲学会や日本デュイ学会で、今日焦眉の問題である教員免許更新制をシンポジウムで取り上げようとしてもむずかしいと思いますが、本学会なら十分に可能です。第2に、若手研究者にとって大会は、大先生たちから懇切丁寧な指導を受けられる絶好の機会です。第3に、若手研究者にとってはデビューの場です。いきなり全国学会で発表するのはプレッシャーですが、本学会には地方教育学会ならではのアットホームな雰囲気があり、楽な気持ちで発表することができます。

しかしながら、こういうメリットが必ずしも十分に活かされていないように思います。機関誌への投稿件数は、この数年20件程度を維持していますが、大会参加者数の落ち込みは深刻で、何とかしなければなりません。おもしろそうだから参加してみようと会員が思える学会にしていかなければなりません。事務局でも努力してまいります。各会員におかれましてもお力とお知恵をお貸しくくださいますようお願いして、会長就任の御挨拶といたします。

ごあいさつ

前会長 毛利 陽太郎

私は、2006年の日本大学で開催された第54回大会での総会から、2007年の茨城大学の総会、2008年の早稲田大学の総会まで、一期三年にわたり、本学会会長を務めさせて頂きました。この間、皆様の御協力に、深く感謝する次第であります。

本学会は、前会長桑原敏明氏のご配慮の下に、事務局長には佐野享子氏（筑波大学大学教育センター）、事務局次長には木村範子氏（筑波大学人間総合科学研究科講師）にお願いし、さらに前事務局長の吉田武男氏にも常任理事のお立場で強力に御指導いただいていたいました。

また、学会紀要の編集につきましては、小川博久編集委員長、葉養正明副委員長のもとで進めていただくことになりました。この点、厚く感謝申し上げる次第であります。この間、若い会員の方々が、続々と入会してきていただいております。今後益々この入会を推し進め、会の発展を願っております。



「関東教育学会研究奨励賞」を受賞して

ベ
珉卿 (埼玉純真短期大学)

この度は、「幼児による即興的音楽表現の可能性」という論文で関東教育学会の研究奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。毛利陽太郎会長をはじめとする選考委員会の先生方には心よりお礼申し上げます。

「幼稚園教育要領」における領域「表現」には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と書いてあります。しかし、既存の指導方法「教授－学習」による音楽表現活動を通じて、前述のねらいを達成することは難しいと思います。今回受賞致しました「幼児による即興的音楽表現の可能性」という論文は、幼児の主体性と創造性を支える一方法についてです。本論文の実践事例では、最初に保育者が即興の一種である簡単な音楽遊びと音楽ゲームのモデルとなることで、幼児が徐々に音楽的語彙を習得していくプロセスが見られます。幼児同士の即興表現はカオスになりやすく限界があるので、保育者が足場かけとなり、新たな音楽表現活動に発展できるように促す役割を果たします。やがて幼児同士が互いに見て真似て学ぶ対象、足場かけとなっていくプロセスの事例を分析及び考察致しました。幼児は大人より豊かな音楽的経験を持っていませんが、音楽表現における幼児一人ひとりの気づきを保育者がよく見取り生かすことは、幼児の主体的・創造的音楽表現を支えることに何より大事であると思います。

このような研究を認めてくださったことに感謝申し上げます。また、研究というものはことばと国を超えるものであるとご指導していただき、支えてくださった小川博久先生と坪能由紀子先生に感謝申し上げます。この賞をはげみにこれからも一步一步前進していきたいと思います。この度は誠にありがとうございました。



関東教育学会第56回大会を振り返って

大会準備委員会委員長 湯川 次義（早稲田大学）

第56回大会は、2008（平成20）年10月26日（日）に早稲田大学の16号館を会場にして開催されました。早稲田大学の関東教育学会とのかかわりは深く、学会創設時から本学関係者が理事となり、特に1966年には山田栄教授が会長に就任し、事務局も本学に置かれました。その後も本学教員が理事として長くかかわってきましたが、会場校を担当するのは本当に久しぶりのことでした。この間、大学院学生が研究発表を行い、また紀要にも掲載されるなど、関東教育学会を大いに「利用」させていただいているので、私としてはなるべく早い時期に大会校を引き受けなければと真剣に考えていました。こうした意味で、皆様のご協力により大会を無事終えることができたことは、私どもにとって大きな喜びでもあります。

以下、大会の概要を報告させていただくことにします。大会にはおおよそ65人の会員が参加し、全体としては盛況な大会だったと思います。

研究発表の件数は17で、大きなくくりとして教育課程、比較教育、教育哲学・思想、日本教育史、生涯教育・保育等にまとめて、5つの会場を設定しました。個別会場では、熱心な発表と質問が展開されましたが、もう少し参加者が多ければ、というのも正直な感想でした。



次に公開シンポジウムについてですが、テーマは「教員の専門性の向上と教員免許更新制実施上の諸課題」としました。テーマ設定の趣旨は、2008年夏に「更新試行講習」が実施され、2009年4月からの本格実施に向けた課程認定準備が進められている現状を踏まえ、前大会の論議（「教員免許更新制の導入は教員の指導力を高めうるか」）を引き継ぎつつ、この制度への現実的な対応を探ることにありました。教員免許更新制は、教員の専門性の向上にどのような貢献ができるのかを中心に、①2008年度のパイロットプランの実施状況と課題、②2009年度以降の本格実施に向けた課題、③教員として講習に求めるもの、について議論しました。

①と②については、国立大学と私立大学の事例を比較するため、田中喜美氏（東京学芸大学）と矢口徹也氏（早稲田大学）から、教員の専門性と更新制、カリキュラム・評価・実施体制等を紹介していただきました。また③については、受講者であった吉田浩氏（つくば市立竹園東小学校）と高山正弘氏（早稲田大学本庄高等学院）から改善点等が指摘されました。有効な試行講習の在り方を中心にして建設的な意見が交換され、有意義なシンポであったと考えます。

最後になりましたが、シンポで提案者になっていただいた先生方、久保田英助氏（本学非常勤講師）をはじめ業務を手伝っていただいた方々、関係の皆様は厚く御礼申し上げます。近い将来、再度早稲田大学で大会をお引き受けすることができればと考えております。



◇総会・理事会報告◇

◇新役員について

2008年10月26日（日）に早稲田大学にて開催されました第56回大会総会におきまして理事選挙及び会長選挙の結果が報告され、承認されました。また、12月6日の2009年度第1回理事会におきまして、新井会長から新事務局体制、会長指名理事、常任理事（理事全員を選任）について提案があり、原案通り承認されました。新役員は次の方々です（敬称略）。

【会長】 新井保幸

【理事(常任理事)】

新井郁男、新井淑子、磯辺武雄（会長指名理事、第57回大会準備委員長）、市村尚久、小川博久、沖清豪、蔵原清人、桑原敏明、今野喜清、関川悦雄、高田喜久司、毛利陽太郎、湯川次義、吉田武男

【監査】

青木研作、一木玲子

【事務局】

滝沢和彦（事務局長）、砂原由和（事務局次長）、板橋雅則（事務局幹事）

◇紀要編集委員について

第1回理事会におきまして新井会長から紀要編集委員会正副委員長について提案があり、原案通り承認されました。第36号の編集委員は次の方々です（敬称略）。

【委員長】 関川 悦雄（日本大学）

【副委員長】 吉田 武男（筑波大学）

【委員】 神長美津子（東京成徳大学）

蔵原 三雪（日本女子体育大学）

佐藤 隆之（早稲田大学）

樋口 直宏（筑波大学）

望月 重信（明治学院大学）

【幹事(兼)】 森山 賢一（玉川大学）

◇研究奨励賞選考委員会について

第1回理事会におきまして新井会長から現行委員会の構成とその問題点（任期、委員の負担）について指摘があり、それを承けて意見交換を行ったが結論を得るには到らず、継続して審議することとなりました。

◇決算報告・予算案

第56回大会総会におきまして、下記のとおり2008年度決算報告、会計監査及び2009年度予算案が了承されました。

【決算報告】

関東教育学会2008(平成20)年度 決算報告

(2007.9.1~2008.8.31)

<収入の部>

(単位:円)

費目	予算	決算	決算-予算	備考
前年度繰越金	1,141,894	1,141,894	0	
会費	945,000	1,152,000	207,000	納入者*1 195名
雑収入	100,000	101,106	1,106	関東教育学会紀要売り上げ*2 (15,270円) 教大協補助金 (85,000円) 郵便利子 (836円)
合計	2,186,894	2,395,000	208,106	

*1 4,500円149名、9,000円31名、13,500円15名(計195名)

*2 500円10件、2,000円5件、郵送料270円

<支出の部>

(単位:円)

費目	予算	決算	予算-決算	備考
紀要印刷費	498,750	498,750	0	紀要第34号400部
会報印刷費	50,000	41,160	8,840	会報第43号350部
通信費	220,000	137,590	82,410	含:理事選挙実施経費 47,290円
交通費	220,000	74,620	145,380	含:選挙管理委員会経費 2,460円
会議費	120,000	56,354	63,646	含:選挙管理委員会経費 3,900円
人件費	270,000	169,000	101,000	含:選挙関係事務関連人件費 20,000円
庶務費	50,000	9,278	40,722	含:選挙関係事務関連庶務費 2,669円
印刷コピー費	350,000	106,400	243,600	含:名簿作成費 50,400円
大会関係費	250,000	212,460	37,540	第55回大会補助金(200,000円)、運営補助費(人件費・交通費)
予備費	158,144	30,000	128,144	研究奨励賞 (30,000円)
合計	2,186,894	1,335,612	851,282	

収入合計 ￥ 2,395,000

支出合計 ￥ 1,335,612

差額 ￥ 1,059,388 (次年度繰越金)

会計監査証明書

関東教育学会2008年(平成20)年度の収支決算に関し、所定の手続きにしたがい監査を行った結果、その内容に相違ないことを証明いたします。

2008年9月28日

会計監査 安井一郎 ㊞

会計監査証明書

関東教育学会2008年（平成20）年度の収支決算に関し、所定の手続きにしたがい監査を行った結果、その内容に相違ないことを証明いたします。

2008年10月10日

会計監査 眞有澄香 ㊞

【予算】

関東教育学会2009(平成21)年度 予算

(2008.9.1～2009.8.31)

<収入の部> 2008年8月31日 現在、会員数248名 (単位:円)

費 目	2008年度予算	2009年度予算	備 考
前年度繰越金	1,141,894	1,059,388	
会 費	945,000	949,500	211名(会員の約85%)
雑 収 入	100,000	100,000	教大協補助金、紀要売り上げ等
合 計	2,186,894	2,108,888	

<支出の部> (単位:円)

費 目	2008年度予算	2009年度予算	備 考
紀要印刷費	498,750	491,400	紀要第35号400部
会報印刷費	50,000	50,000	会報第44号350部
通 信 費	220,000	200,000	
交 通 費	220,000	200,000	
会 議 費	120,000	100,000	
人 件 費	270,000	250,000	
庶 務 費	50,000	50,000	
印刷 ^ホ ー ^ク 費	350,000	200,000	
大会関係費	250,000	250,000	含:第56回大会補助金(200,000円)
予 備 費	158,144	317,488	含:研究奨励賞(30,000円)
合 計	2,186,894	2,108,888	

【会員数】

2007年8月31日現在	248名
2008年8月31日現在	248名
(増減内訳) 退会者	8名
みなし退会者	9名
入会者	17名

(参考) 関東教育学会会則第4条第5項

「上記会費の未納期限が3年度を超えた場合には、当該未納会員は本会を退会したものと見なす。」

◇次回大会について

第57回大会は、2009年11月1日(日)、**国士館大学(世田谷キャンパス)**にて開催される予定です。

◇紀要第36号投稿論文の募集◇

紀要編集委員会では、紀要第36号の投稿論文を下記の要領で募集します。ふるってご応募下さい。なお、紀要第34号より投稿要領が改正されましたので、ご注意下さい。

〈投稿要領〉

- (1) 論文原稿は、未刊行のものに限る。なお、二重投稿論文も認めないものとする。
- (2) 投稿論文のうち「研究論文」は、400字詰めB5判原稿用紙40枚(図表および注記を含む)以内、横書きとする。ワープロ原稿の場合は、A4判の用紙使用(40字×30行)16,000字(図表および注記を含む)以内、横書きとする。「実践報告」は、400字詰めB5判原稿用紙25枚程度(図表および注記を含む)、横書きとする。ワープロ原稿の場合は「研究論文」と同様の形式で10,000字程度、横書きとする。「実践報告」は、その旨を明記する。
- (3) 投稿論文には、必ず英文タイトルを付記する。また本文中には、執筆者名及び所属機関名を記入しない。
- (4) 投稿論文は3部(2部は複写でもよい)送付する。
- (5) 論文の投稿申し込み締め切りは4月30日(木)消印有効とし、原稿の提出締め切りは5月31日(日)消印有効とする。
- (6) 投稿申し込みおよび原稿提出に際しては、所定の申込書(投稿申し込み時)および投稿票(原稿提出時)を用いて、氏名(日本語及びローマ字表記)、論文タイトル、所属、自宅住所、郵便番号、電話番号、メールアドレスを明記し、紀要編集委員会事務局宛に郵送する。

(付記)

1) 申込書 (同一書式であれば、この用紙を使用しなくとも可)

関東教育学会紀要 投稿申込書 (4月末日締め切り)

氏名 (日本語)	
氏名 (ローマ字表記)	
原稿の種類 (○をつける)	研究論文 実践報告
論文タイトル (日本語。仮題目可)	
所属	
郵便番号および自宅住所	
電話番号	
メールアドレス	

2) 投稿票 (同一書式であれば、この用紙を使用しなくとも可)

関東教育学会紀要 投稿票 (5月末日締め切り)

氏名 (日本語)	
氏名 (ローマ字表記)	
原稿の種類 (○をつける)	研究論文 実践報告
論文タイトル (日本語)	
論文タイトル (英語)	
所属	
郵便番号および自宅住所	
電話番号	
メールアドレス	

3) 掲載が決定された場合には、ワープロ原稿は原則としてフロッピーディスクで提出していただくことになります (やむを得ない場合は、指定された原稿用紙で提出することもできます)。

編集委員会事務局 (投稿申し込みおよび原稿送付先)

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

玉川大学教育学部 森山賢一研究室内

関東教育学会紀要編集委員会

(問い合わせ電子メール moriyama@edu.tamagawa.ac.jp)

◇事務局から◇

◇事務局変更のお知らせ

昨年12月の理事会で新事務局体制が承認され、事務局所在地も変更になりました。新住所及び連絡先は以下のとおりです。

〒170-8470 東京都豊島区西池袋3-20-1 大正大学教職教授室内

E-mail kers-www@egroups.co.jp (学会宛)

k_takizawa@mail.tais.ac.jp (事務局滝沢宛)

電話・FAX 03-5394-3128 (事務局滝沢宛)

なお、振替口座番号はこれまでと変わりません。

関東教育学会 00310-8-35745

◇寄贈図書等

青山学院大学教育学会『教育研究』第52号

中国四国教育学会『教育学研究紀要』第53巻、第54巻 (CD-ROM版)

同 『教育学研究ジャーナル』第4号、第5号

東海大学教育研究所『東海大学紀要 教育研究所』第15号

常磐大学大学院『常磐研究紀要』第2号

常磐大学大学院人間科学研究科『人間科学論究』第16号

◇その他のお知らせ

(1) 紀要バックナンバーの販売について

紀要は次の価格で販売しております。ご希望の方は、学会事務局までご連絡ください。掲載論文名については、ホームページ上でご紹介しています。なお各号とも、完売した

時点で販売を中止させていただきますので、必要な方はできるだけ早くご連絡ください。

創刊号～第32号：500円（1冊） 第33号～第35号：2,000円（1冊）

（2）ご住所等の変更は忘れずにご連絡ください。

ご住所・ご所属等の変更の際は、ハガキまたはEメールで学会事務局宛にご連絡をお願いいたします。

（3）入会をお勧めください。

多数の方に入会頂いて活気溢れる学会活動を推進していきたいと思えます。是非新入会員をご紹介ください。ご入会の際は、紀要または学会ホームページに掲載されている入会申込書に必要な事項をご記入の上、年会費（4,500円）を入金した郵便振替用紙のコピーとともに学会事務局までご郵送ください。

（4）会費の納入をお願いします。

3年以上の会費未納者は「みなし退会」として処理いたします。会費未納の方は下記の口座にお振り込みいただきますようお願い申し上げます。

郵便振替口座： 関東教育学会 00310-8-35745

会費は年間4,500円です。2009年度の会計年度は2008年9月1日から2009年8月31日です。

（5）会費納入に伴う領収書の発行について

振替口座に会費をお振り込みいただいた方で、学会長名の入った領収書の発行を希望する場合には、下記の学会事務局にご連絡ください。

【編集後記】

関東教育学会会報No.44をお届けします。前会長毛利陽太郎先生、前事務局長佐野享子先生、木村範子先生には3年間本当にご苦労様でした。小職はこうした会務に不慣れであり誠に心許無い限りですが、新事務局次長、同幹事ともども新井新会長のもと与えられた責任を果たしていきたいと思っております。会員諸先生のご支援ご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。あわせて、11月1日（日）の第57回大会（国士館大学）でお目にかかれるのを楽しみにしております。（滝沢記）

関東教育学会事務局

〒170-8470 東京都豊島区西池袋3-20-1 大正大学教職教授室内

E-mail kers-www@egroups.co.jp（学会宛）

k_takizawa@mail.tais.ac.jp（事務局滝沢宛）

学会HP <http://wwwsoc.nii.ac.jp/kers/>

電話・FAX 03-5394-3128（事務局滝沢宛）

（事務局へのご連絡はできるだけメール又はファックスにてお願いいたします）

振替口座番号 関東教育学会 00310-8-35745

事務局長 滝沢和彦 事務局次長 砂原由和

事務局幹事 板橋雅則